

地質ニュース

昭和44年5月

第177号

1969

解説	昭和44年度の事業計画 研究企画官・1
	日本列島の生い立ちをさぐる ⑥-2 河合正虎・4
トピックス	湖東(琵琶湖東部)で白亜紀末火山岩類の発見 河田清雄・11
	きんのはなし ⑥ 高島清・16
	地質文献の即時検索は可能か 徳永重元・20
	地熱ボーリングの循環泥水の温度測定 柳原親孝・23
海外事情	韓国の地質調査所 馬場健三・26
	台湾東部銅鉱床調査紀行 清島信之・30
	タイの宝石 沢田秀穂・42
	Wadi Sawawin 小村幸二郎・48
	学会掲示板 29
	地学と切手 堀内恵彦・19

編集 地質調査所

表紙の写真

発行 株式会社 実業公報社

山崩れと湖沼——十二湖——(西津軽・北秋田路 4)

十二湖は岩崎南東方の丘陵中に分布する湖沼群である。夏期には五能線に十二湖仮駅が置かれるなど 西海岸有数の観光地として知られる。名前は湖沼の数が大きいもので12あることに由来する。しかし実際には小さいものを含めると30余に及ぶ。ところで十二湖にはかつて1933年頃その成因をめぐって多くの地形・地質学者によって活発な論争が行なわれたというエピソードがある。そのきっかけは低位氷河湖説でこれに対して侵食盆地湖・ドリーネ式融食湖・崩壊堰止湖などの諸説が述べられた。現在ではこの付近の丘陵が軟弱な第三紀層の凝灰岩であるため 過去の大地震に関連して崩壊堰止が起こったものと考えられ 後者の説が支持されている。写真は鶏頭場の池から大崩山(939.5m)を望んだもので この山地崩壊は宝永元年(1704)の能代大地震の際起こったといわれる。(盛谷智之)